

プお行動支援 (PBS)

PBSの効果を高める褒め方

- ① 具体的に褒める (何を褒めたのか明確化)→何で良かったのか、わかりやすい。
- ② すぐに褒める。(即時に、タイミングよく!)
- ③ 最終的なゴールには到達してなくても、今できているところに注目して褒める。
- ④ 褒める側 (教師) の想いを伝える。
- ⑤ モデルとなる他の子の行動を褒める→どうすればよいのかを伝えることになる。
- ⑥ 子ども同士、教師同士でできているところや良いところを見つけて、認め合う。
- ⑦ どの子にも、褒め・認められる機会を!

学校!



一方で「叱る (注意する) ことも必要です!

叱ったら、元気が大切で、その子どもをよく観察しておいて、行動が修正されていたり、修正しようという努力が見られたりしたら、すかさず褒めます。本人の努力を褒めましょう。

する方法がPBSです!

風通しのよい職場 高め合う関係

集団づくりにも個別的支援にも力を発揮するPBS

PBSを柱にした学級経営を行うことで、まず落ちついて過ごせる子どもが増え、学級全体が安定します。その結果、教師に余裕が生まれ、支援や配慮が必要な子どもへの関わりを充実させることができます。

また、PBSは問題が起きる前から積極的に対応することになるので、結果として問題行動を予防することにつながります。

も教師も

のサイクル

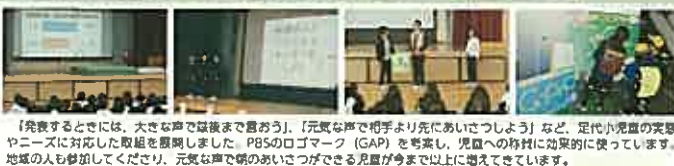
Step Up!

子どもを褒める習慣を、褒めを自分たちで行っていく中で「主体的」な褒めまでやれる「褒め」を習得します。



東みよし町の取組 ~4小学校の挑戦~

● 足代小学校 (GAP がんばる あしっこ プロジェクト)



「発音するときには、大きな声で最後まで発音し、「元気な声で相手より先にあいさつしよう」など、足代小児童の英語やニーズに対応した取組を展開しました。PBSのロゴマーク (GAP) を考案し、児童への身に付いた効果的に使っています。地域の人も参加してくださり、元気な声で朝のあいさつができる児童が今まで以上に増えてきています。

● 屋間小学校 (ひるまっこ チャレンジ プロジェクト)



「笑顔とメリハリ」をテーマに「チャームが回り終わるまでにはあきらめず」などを目標に取り組みました。次の授業で学習目標をしっかりと教員が教員に伝わり、各学級で児童の実態に応じたアレンジや工夫が見られました。

● 三庄小学校 (笑顔ひろがれ! 三庄っ子 プロジェクト)



「友だちと話すときは、あったか言葉を使おう」「自分から元気なあいさつをしよう」などを目標に取り組みました。児童玄関の横に設置されたあったか言葉の板はとても人気です。学校では以前にも増してあったか言葉が話し出されています。

● 加茂小学校 (KSP かもっこ スマイル プロジェクト)



本年度は、過去2年間に実践した目標を改訂しながら全校で取り組みました。高学年が手本となって、低・中学年を引っ張る形でプロジェクトを進めました。また、計算や漢字の読み等の基礎的な学習内容の練習や、授業における「学び合い」など、学習支援につながる内容にもチャレンジしています。

特別支援まなびの広場へアクセス!

<http://manabinohiroba.tokushima-ec.ed.jp/>

あなたの学校・学級での実践に役立つ情報が満載! 教材や研修資料などを公開しています。

リーフレットについてのお問い合わせ 徳島県立総合教育センター特別支援・相談課

わかった!
できた!

自信とやる気を育てる
「ポジティブな行動支援」

~子どもも教師も幸せな学校をめざして~



平成31年2月 徳島県教育委員会

スバツとわかる「ポジティブ」

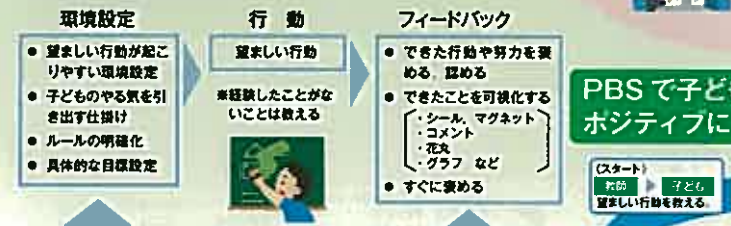
子どもが主役の学校づくりを!!

ポジティブな行動支援 (Positive Behavior Support: PBS) は、子どもの社会性と主体性を育むことを目的として、教師の「こんな子どもに育ってほしい」、子どもたちの「こんな自分になりたい」という願いを形にするものです。子どもを管理するための方法論でも、問題行動を減らすための手段でもありません。



望ましい行動を増やすための仕掛け作り

ポジティブな行動支援の「ポイント」は、望ましい行動を増やし、子どもの成功と達成を実現するための仕掛け作りです。



子どもたちにとって「頑張ろう」「やってみよう」「できるかも」と思える仕掛けを作る。子どもたちにとって「うれしい!」「楽しい!」「できた!」「頑張った!」と思えるように褒め方の工夫をする。

●望ましい行動の記録によって、子どものがんばりや成長を見えるようにし、取組の振り返りや子どもを褒めるツールに使う。

PBSで子どもポジティブに!

プラス

PBSで学級成長物語

～ポジティブな行動支援でジャンプアップ～

■どうしたらいいんだろう...

A先生は学級経営のことで悩んでいました。

できるはずのことができない...
活動に集中して取り組めていない...

焦り

同じ注意を繰り返している

■PBSとの出会い

A先生は、ミーティングで悩みを打ち明けました。するとB先生から

クラスのごとで悩んでいる様子だね？子どもも教師も笑顔になれる方法があって、うちのクラスでもやってみるんだ。A先生もやってみるかい？

そんな考え方も方法もあるのか？これで悩みが解決するかも、やってみよう！

B先生の学級では、すでにPBSに取り組み、子どもたちを「褒めるための仕掛け」がたくさんありました。B学級の子どもの変化に気がついたA先生は、PBSの説明を熱心に聞きました。

■まずは実態把握！

A先生は、まず3日間、子どもたちの様子を観察し、メモしてみました。

[メモ] ○月○日 ○曜日

- くつばこのくつばはほとんどの子がそろえて入れている。
- 授業中、子どもの発表は多い。
- 授業後、黒板に入って元気よくあいさつできる子は1～2名だけ。
- 授業をはじめても、大半の子どもは教科書やノートを机の上に出していない。
- 子ども同士あたたかい言葉かけが少なめ。

B先生に相談するとアドバイスしてくれました。

子どもにも教師にも分かりやすく、取り組みやすいことから始めるといいよ。

授業開始前に、教科書やノートを机の上に出すことから始めてみよう！

■取組を始めるための準備①

目標「授業開始前に教科書やノートを机の上に出す」

具体的な計画を立てるためにもう少し詳しく観察してみよう！

【観察結果と記録】

- 月○日(○曜日) 3校時 算数 準備できている人(10名、30名)
- 月○日(○曜日) Cさん、Dさん、Eさんは毎時間、学習準備している。知らなかったなあ。
- 月○日(○曜日) 休み時間に入る前の子どもたちの会話「文、何の授業かな?」「算数だよ。黒板見てごらんよ。」注目して観察すると、計画案通りみんな見ているんだ。★工夫すれば、クラス全員行動が定着しそう!

記録はできる範囲で!

■記録からわかったこと

学習の準備をきちんとできている子が数人いたのに、その子たちを特に関心してはいなかった。ほとんどの子どもが、休み時間に入る前に次の授業が何か、確認している。準備に工夫すれば、多くの子が無理なく学習準備ができそう。

■取組を始めるための準備②

A先生は、学級会で子どもたちに相談しました。

「どうすれば みんなが忘れず準備をするだろう?」

するとある子どもから「机の7つ道具みたいに7点セット、っていう図を作って貼ったら、思い出しやすい、安心だね。」との意見が出ました。「よし!それだ!」A先生は笑顔でうれしそうに頷くことができました。

【「褒め方」の計画】

- [STEP1] 子どものできている行動を称賛。
- [STEP2] 良い行動をまねた子を称賛。
- [STEP3] 準備ができている子の連絡帳に花丸を書く。
- [STEP4] 学級全員ができたらマグネットをはって褒める。

【「行動記録」の計画】

基本的には活動開始前と同じ行動記録を継続する。

実質の前夜で比較して、成果を評価する。

■取組開始!!

A先生は、子どもたちに伝えました。

おもしろそう! やってみよう!

自分たちの助けになりそう!

取組の意味(メリット)の説明例

「学習準備が整っていると、授業がスムーズにスタートできるよ!」「すぐに授業開始ができるよ!」「先に準備しておけば、忘れ物に早く気づいて、授業が始まる前に先生に確認できるよ!」

■子どもたちの変化(4週間～8週間)

A先生は、以前にも増して子どもを褒めるようになっていました。

さわがずスムーズに移動できたね。

あったか行動によく気がついたね。

子どもたちの自主性が高まり、協力しあう姿が増え、A先生は、確かな手応えを感じました。また、褒めず準備をもって子どもと接することができ、A先生自身も自信を深めました。

■記録から見直しを

改めて記録を見直すと、行動が定着しない子どもが特定できるようになりました。また、一時は定着していた子ども、できたりできなかったりする日が増えてきました。

しきり直しの時間かな。新しい工夫をしてみよう。

■新たな工夫で新しい風を!

A先生は、準備を整えた上で、実際の活動は子どもたちに任せました。

準備タイムです。次の授業は黒板です。机の上に7点セットを出しましょう。

準備OK? (声をかけよう)

すると、ほとんど全ての子どもが安定してできるようになり、今ではすっかり行動が定着しました。

■取組は続く...

学級では、授業準備などの望ましい行動を子どもたちが主体的に行う姿が見られます。A先生はよいところを「褒め・認め・励ます」PBSで、今後も学級経営を進めていこうと思っています。

A先生の最近の関心事は、「授業のスキルアップ」です。子どもたちとともに、自分がやってみたい授業や学級づくりに挑戦できる日々に、深い充実感を覚えています。

PBSは教師をつなぎ、協働力を高めます

■つながる教師

ポジティブな行動支援が運ぶと...

- ・ルールやマナーが明示化される。
- ・教師の指導基準がそろいやすい。
- ・教師間の連携・協働が円滑しやすい。

足並みがそろい 協働力が高まる チーム学校を具現化する

その後、校内ではPBSが少しずつ広がっていきました。職員室でも自分の学級だけでなく、他の学級のよいところに注目した言葉が飛び交うポジティブな空気がながれています。学校で何か起きたら、職員で協力して問題解決しようという雰囲気も高まっています。

学校全体で取り組むPBSは、一人ひとりの子どもの成長を教師みんなで支えていく試みです。教師もつながり、助け合いながら、チーム学校として子ども教師も幸せな学校をめざしていきます。

■学級から学校へ

校内での興味の高まりを感じたA、B先生は、管理職や他の先生たちに学校全体でPBSを取り組むことを呼びかけました。

※学校全体で取り組むPBSについては、平成29年度のレポートを御覧ください。

■他の学級へ

校内では、B先生の学級につづき、A先生の学級でもPBSがうまくいきました。職員室ではA、B学級がうまくいっていることが話題になっています。他の学級でもPBSに興味を持って、取り組み始めました。

■子どもが主役の学級づくり

PBSによって望ましい行動が起こりやすい仕掛けをつくり、子どもたちが成功と承認を受ける経験を積み重ねることによって、子どもたちは教師(担任)に信頼を寄せ、自信をもって望ましい行動をすることができるようになります。

その結果、子どもたち自身が考え、お互いに助け合いながら成長していく学級・学校(園)を創ることが出来ます。教師が子どもたちへポジティブに関わり、一人ひとりの成長を支えながら子どもが主役の学級経営を行うことで、子どもも教師も幸せな学級を創っていきましょう。

褒める・認める 信頼

安心感や居場所を感じる学級

※学級成長物語に掲載している写真は本文の内容をイメージしやすくするため、実名・氏名は仮名で示しています。平成30年度4年生(内田真生)の協力のもと撮影したものです。